

## 新年のご挨拶

一般社団法人日本病院薬剤師会  
会長

木平 健治 Kenji KIHIRA



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より日本病院薬剤師会の運営にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年の今頃は、2020年という区切りの年を迎え、十二支の「子の年」でもあり、東京オリンピック・パラリンピックが予定され、期待を膨らませて新年を迎えていました。また、病院薬剤師にとっては、診療報酬改定の年であり、医療の質の向上のため病棟業務を一層充実し、2025年問題や地域包括ケアシステム等の構築に向けて院内はもとより院外との医療連携を推進し、飛躍の一年とすることを期しておりました。勿論、病院薬剤師としての活動は精力的に進められています。しかし、それが霞んでしまうほど大きなインパクトで、パンデミック化した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界を震撼させ、先行き不透明な新年を迎えることとなっています。

加えて、昨年も大規模な災害が発生し、多大な被害をもたらしています。COVID-19や災害により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りすると共に、感染された方および災害被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早く日常生活に復帰されることを願っております。

COVID-19は、社会活動に大きな影響を与え、我々の日常も大きく変わりました。日本病院薬剤師会においても、昨年2月の臨時総会を书面審議と変更したことを皮切りに、多くの会議が書面やオンラインでの開催を余儀なくされ、研修会の開催もオンライン開催に変更されています。都道府県病院薬剤師会においても、多大な負担のなか、COVID-19への対応をされていると伺っています。

個々の日常生活も社会活動も新しい形態に急激に変化してしまい、戸惑いの多い現状ですが、新しい形態に適応していかなければなりません。半ば強制された変化であり、我々のように古い年代にとっては対面でないことにやや不安を感じるころですが、会議にしても研修会にしても、移動時間が不要になり参加もしやすいというメリットも感じているところです。

COVID-19への対応に加えて、「医師の働き方改革を推進するためのタスクシフティング」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」改正、「改正薬剤師法」などへの対応が求められています。また、「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」が始まり、懸案である薬剤師の地域偏在や施設間偏在の解消、関連して卒後研修制度など、令和3年も多くの課題を抱えることとなりそうです。

多くの課題はありますが、今年の干支は「丑」であり、新たな日常を受け入れながら、ゆっくりとでも一歩ずつ着実に前進する年にしたいものです。多様化する社会環境・医療環境のなかで、薬物療法の有効性と安全性を確保するという薬剤師の使命が果たせるよう、力を合わせて次代を切り開いていきたいと思っております。

新年にあたり、会員の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。また、皆様の更なるご健勝とご活躍を祈念申し上げます。